

新病院の基本方針

- すべてのいのちに寄り添い、地域に笑顔と安心を届けます
- 地域とともに高度な医療を提供できる病院づくりを推進します



敷地北西から見たイメージ

設計のコンセプト

周辺地域と共生し、安全・安心のランドマークとして、親しまれる病院

1 強固な急性期医療の拠点づくり

- 集中治療室の整備
- ワンフロアで繋ぐ小児・周産期医療
- 人材を育てる教育研修環境の整備

2 すべての人が利用しやすく、働きやすい施設づくり

- 誰でも分かりやすいフロア構成
- ロボットを活用した搬送計画
- スタッフ動線を効率化する部門配置

3 災害に強い病院づくり

- 地震に強い免震構造の採用
- 自家発電設備等のライフライン確保
- 臨時ヘリポートの設置

4 感染症に備えた安心の施設づくり

- 感染症に備えた全室個室
- 感染エリアの隔離が可能な設計

5 里山の景観に調和する病院づくり

- 既存の里山を残し、周辺環境を保全
- 低層化した病棟

6 環境に配慮した持続性の高い施設づくり

- 省エネルギー化による環境負荷軽減
- 施設の生涯にわたる総費用の最適化

計画概要

敷地概要・都市計画等

所在地	神戸市北区長尾町宅原3850番地 他
敷地面積	72,400㎡
区域区分	市街化調整区域、一部農用地区域
建蔽率	60%
容積率	100%
前面道路	東側：市道長尾宅原10号線 西側：市道北神中央線 北側：市道宅原線

建物概要

主要用途	病院
建築面積	10,710㎡
延床面積	40,790㎡
高さ	29m
階数	地上6階
構造	鉄骨造(免震)
駐車場	1,260台
駐輪場	125台
附属建物	院内保育所 他

病院概要

診療科数	35診療科
病床数	一般病床 400床
	集中治療室 25床
	(ICU 6床)
	(HCU 10床)
	(NICU 9床)
	合計 425床
手術室	10室

配置・動線計画

配置図

- 南北に長い敷地形状を活かし、南側から
・里山を保全した森林
・職員駐車場
・院内保育所
・病院本棟
・来院者駐車場
- を配置する計画とします。
- 6階建ての病院本棟を敷地中央に配置し、周囲と調和した景観を創出します。

03.周辺になじむ病院本棟

病棟部分を“井の字型”の形状とすることで、建物の圧迫感の軽減を図るとともに、外壁は、周辺の緑になじむアースカラーを基調とした配色とします。

04.新病院の主出入口

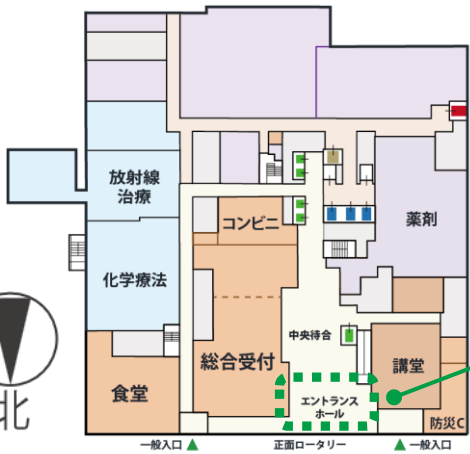
敷地の主出入口は、北側道路に面する敷地の北東部に設けます。



凡例			
→ 来院車両	→ 送迎車両	→ 救急車両	→ 救急外来
→ バス・タクシー	→ 救急車両	→ 救急車両	→ 救急外来
→ 職員・サービス車	→ 救急車両	→ 救急車両	→ 救急外来

フロア構成

1階 総合受付や中央待合のあるエントランスホールは、温かみのある空間でみなさんをお出迎えします。



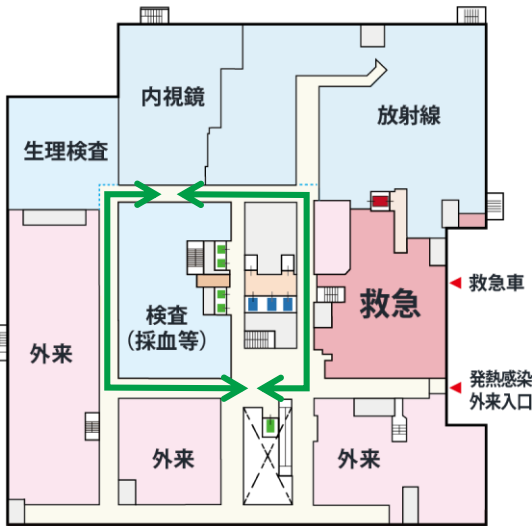
6階建ての病院本棟
病棟は **全室個室**

1階・正面エントランスイメージ



2階 外来をワンフロアに集約し、回廊型のループ動線を採用。利用者が効率的に受診することができます。

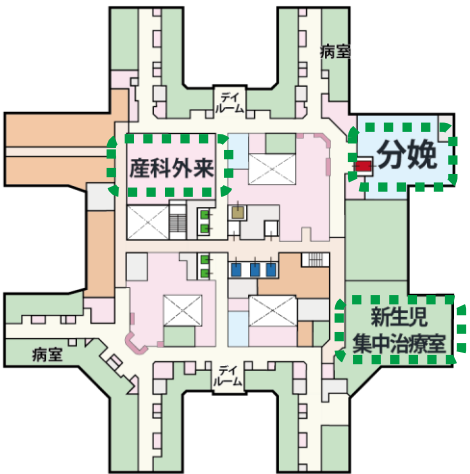
回廊型のループ動線



3階 手術エリアと併せて、集中治療室を隣接配置、高度な医療の綿密な連携を可能にします。

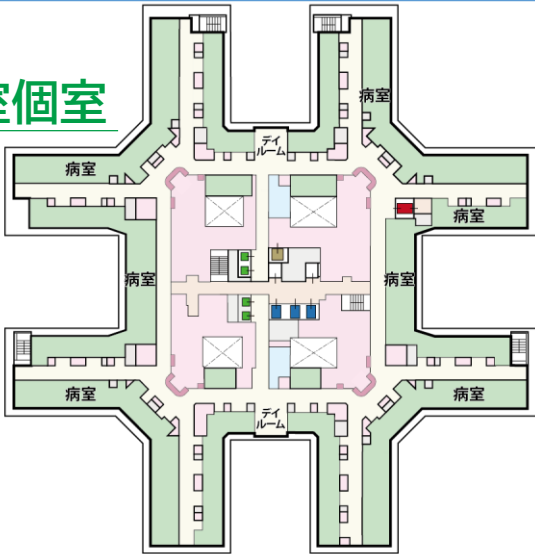


4階 産科外来、病棟と新生児集中治療室を配置し、分娩から新生児の一体的な医療を実現します。



5・6階 病棟を配置します。快適な療養環境かつ感染症にも配慮した全室個室の設計です。

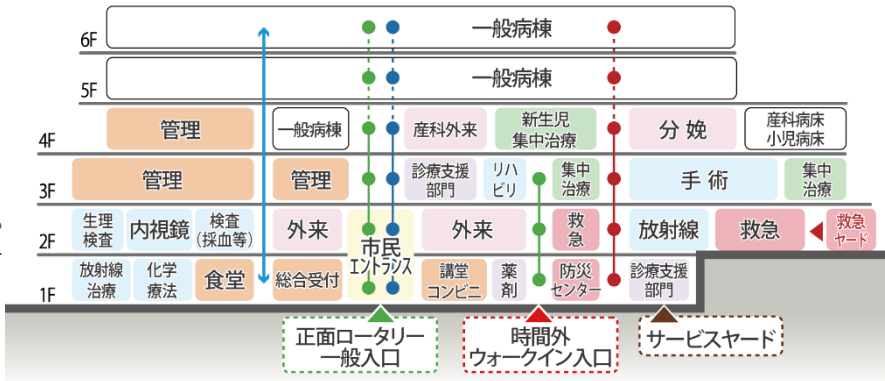
全室個室



断面計画

- 新病院の1階に正面エントランス、2階に救急外来の出入口を確保します。
- 敷地の高低差を活かした計画とすることで、掘削土量を削減し、経済性に配慮します。
- 救急用エレベーターを設置することで、2階の救急エリアから3階の手術エリアへの迅速な移動を可能にします。
- 移動の中心となるエレベーターは、建物中央に集約配置し、患者・職員の移動はもとより物品搬送やスムーズなスタッフ動線を確保します。
- ロボット搬送を用いて院内物流の効率化を図ります。

● 患者エレベーター ● 搬送エレベーター ● 救急エレベーター ↑ 職員連絡階段



環境配慮

- 省エネ技術によるZEB-Oriented[※]病院を実現します。
- 空調、照明の自動制御等、エネルギー消費を抑制するとともに、高効率設備や自然エネルギーを活用し、脱炭素社会の実現に貢献します。

※ ZEB(Net Zero Energy Building)とは、高断熱化、高効率設備、省エネ等により、年間の一次エネルギー消費量の数値を実質ゼロにする建物です。その中でも、ZEB-Orientedは延べ面積が10,000㎡以上の建物の一次エネルギー消費量を30%以上削減した高性能建築物です。(用途が病院の場合)

概算事業費

基本設計段階における概算事業費は、物価高騰などの影響により約577億円となっています。工事費については、実施設計の中で精査し、病院経営、財政負担の軽減に努めていきます。

項目	内容	概算整備費
① 設計監理費	設計・工事監理	13億円
② 建設工事費等	建築工事、外構工事、附帯設備、造成工事、道路改良工事	459億円
③ 医療機器等整備費	医療機器、情報システム、備品	96億円
④ その他	移転費、コンサル経費など	9億円
合 計（消費税10%で試算）		577億円

- ※ 利息(183億円)を含む総事業費は760億円となる。また、上記には、用地取得費を含んでいない。
- ※ 「③医療機器等整備費」の内訳は、医療機器整備費63億円、情報システム整備費29億円、備品費4億円となっている。
- ※ 新病院整備費については、進捗に応じて見直す場合がある。

スケジュール

新病院の今後の整備スケジュールについては下表のとおりとし、令和12年度中の開院を目指します。

	R7	R8	R9	R10	R11	R12
用地調査・取得						
基本設計・実施設計						
建設工事						★

※現時点で見込まれるスケジュールであり、変更となる場合があります。

☆印＝開院

三田市民病院再編 統合・ポータルサイト

to go

～市民病院の進むべき道～

新病院に関する情報を三田市HPに掲載中です。